

## 吉野は、その台地の形成史が人々の歴史に大きく影響している！

現在でも北部が隆起している吉野台地の基盤である火砕流堆積物の年代は50万年前とされ、古くから火山活動の影響を受けてきました。また、その後の火山活動による噴出物も台地全体を覆い、台地上は稲作に適さない地域でした。そのため水の確保に苦勞し、台地下に広がるわずかな平坦面に水田を開発し、さらにわずかな谷間に生活するための水を求めました。

一方で、広大な台地上は放牧に適しており、江戸期以前から馬の飼育が行われ、明治期以降の一時期、酪農も行われました。

また鹿児島城下とその北部地域を結ぶ重要な陸路である街道が通り、人々の往来もありました。生活するには工夫を強いられる環境にありながらも人々が暮らし続けてきたのには、台地から望む桜島の美しさも支えになっていたのかもしれない。

### 1. 台地で暮らすための水の確保

吉野台地は、北部の山間部に水源はありますが、南部の台地上は水の確保が困難な地域です。そのため、川上地区や下田地区といった吉野台地の縁や谷間のわずかな平野が、人々が暮らし始めた場所でした。ただ台地上であっても、吉野台地の隆起運動の際に形成されたと考えられる亀裂が発達した谷部では、一部井戸水が得られる場所があり、その周辺に集落が形成されました。それが七社集落です。また、吉野台地の西側に位置する岡之原の台地も同様で、その谷部にあたる春山集落では井戸跡が確認され、岡之原の集落発祥の地と伝わります。吉野台地に本格的に水道が開通するのは昭和11(1936)年以降のことです。このように台地での生活には水の確保が重要とされてきました。

#### ①七社の井戸（西の河と東の河）

七社集落の住宅街から少し離れた谷合にひっそりとあります。井戸は2か所で、集落との位置関係から西の河と東の河と呼ばれています。両方とも水量は多くはありませんが、現在でも途切れなく水が湧いています。吉野台地が隆起する際に生じた亀裂が谷に発達し、そこに水が集まるようになったと推定されます。台地上の井戸として珍しいものです。



七社の井戸(東の河)

## ②寺山の水源地

寺山の吉野開墾社の記念碑近くに水源地があります。昭和9(1934)年にこの地から吉野台地への送水が行われました。記念碑横には現在も水をたたえた池があります。その記念碑は昭和11(1936)年に建立されました。



寺山の水源地

## ③牧雄吉胸像

水の確保が困難であった吉野台地に水道を引くことに尽力した人物です。昭和9(1934)年から寺山からの水道工事をはじめ、昭和11(1936)年に雀ヶ宮まで通水することができました。現在、胸像は御召覧公園内にあります。

## ④川上の水神碑

<sup>あべき</sup>精木川沿いの川上橋のたもとにあります。正面に水神と大きく刻まれています。建立年代などは不明です。おそらく周辺の水田開発と同時に建立されたものと推測されます。



川上の水神碑

## ⑤岡之原の春山公民館近くの井戸跡

地名が語るように台地上にある岡之原地区ですが、最初に人々が住むようになったのが春山とされています。この地域は深い谷部にあたり、台地上では水の確保が困難であったことから、水の集まる谷が居住として選ばれたのかもしれない。かつての井戸は残念ながら失われてしまいました。



春山集落の谷

## 2. 台地を管理する武士の足跡

水の乏しい吉野台地ですが、馬の生育には適していました。そのため牧が設置され、管理には武士が関与しました。また、吉野台地は薩摩国と大隅国の国境にあたり、鹿児島と他地域を結ぶ場所でもありました。そのため台地周辺では、統括のための城や館も設けられていました。

また、江戸期の吉野は、実方までは城下として位置付けられ、その城下の近在として武士も分散して住んでいました。こうした武士が生活のために牧の管理や紙漉きなどにも従事していました。鹿児島城下と藩内の北部地域を結ぶ主要街道である大口筋

沿いには、島津本宗家の分家にあたる宮之城島津家や今和泉島津家の領地もありました。こうした武士の居住を示す足跡を地域の文化財からたどることができます。

#### ①野呂迫の御仮屋跡

「野呂迫」を素直に読めば「のろさこ」となりそうですが、「ところざこ」と読みます。現在の埼玉県所沢にゆかりのある本田一族が、この地に拠点を置いたことが関係しているとされ、南方神社の隣接地にはその屋敷跡と伝わる場所もあります。



野呂迫の南方神社

#### ②宮之城島津家関係史跡（墓地跡・徳源様の祠）

江戸期に天神山周辺は宮之城島津家の領地でした。大口筋沿いにあたり、宮之城島津家の久治と長丸の墓もこの地にありました。現在は、さつま町の宮之城島津家墓地に移設されています。また、宮之城島津家第4代久通の遺徳を偲ぶ招墓も大明丘小学校近くにあります。また、吉野公民館の敷地には、



島津久通の招墓

宮之城島津家の土地内にあった良質の杉材で建造した第12郷校に関する記念碑もあります。このように、吉野台地は宮之城島津家と関係の深い地域でもあります。

#### ③東別府村の名

現在国道10号が通る竜ヶ水などは、江戸中期に東別府という古名があったとされています。現在は吉野台地上に中別府という地名が残り、さらに鹿児島インターの西側には西別府町があります。これらは関連した地名と推測されます。

#### ④大明ヶ丘団地の墓地（松平墓地）

鹿児島城下である実方の武士の墓地でした。そのため別府晋介の親族の墓もあり、古墓も多くあります。かつてこの墓地に西郷隆盛の頭部が埋まっているとの伝説が語られたこともありましたが、現在は否定されています。

#### ⑤花棚の城跡（鷹ノ巣城）

花棚から川上の谷あいを下りる途中の小字が鷹ノ巣です。この付近に城があったとされています。実態は不明ですが、台地から吉田方面に抜ける旧道近くにあたります。

## ⑥木市の由来

鹿児島市の春と秋の風物詩の1つが木市です。吉野の造園業者も関わっています。吉野台地の各地で造園が行われていますが、島津家の磯別邸で造園に従事していた職人たちが明治以降に吉野で始めたとされています。

## ⑦紙漉き（御内用方の跡）

実方集落は城下士の居住する地域ですが、地域の農民らとともに紙漉きに従事していました。精木川から取水した水を紙漉きに利用したとされ、上質の紙を生産していました。藩主などが使用する紙として知られ、御内用方と呼ばれています。



御内用方跡

## ⑧義弘の馬訓練

現在の始良市方面に島津義弘の拠点があった頃、吉野台地は家臣を引き連れて乗馬訓練を行う場所であったとされています。帯迫周辺もその1つで、乗馬の得意だった義弘が遅れをとった家臣のことを思いやり、わざと落馬したという逸話が伝わります。

## ⑨火薬庫跡

鹿児島藩の火薬製造所が吉野台地下の滝ノ上であり、そこで製造された火薬の保管場所の1つが中ノ原にありました。明治10(1877)年、西南戦争のきっかけとなる私学校の生徒による暴発の際には、この火薬庫も襲撃対象となり、火薬が奪取されました。

## 3. 台地と他地域を結ぶ街道

吉野台地を縦断する鹿児島藩の主要街道の1つが大口筋でした。大口筋は鹿児島城下から実方を通過して帯迫、菖蒲谷に抜けて、関屋谷と呼ばれる牟礼ヶ岡と吉野台地の間の深い谷を通る道筋です。牟礼ヶ岡を越えると白銀坂に通じ、薩摩国から大隅国に抜けます。特に江戸期には往来する人々も多く、そのなじみ深さから街道を舞台とした物語「大石兵六夢物語」も生み出されました。

また、現在の国道10号が開通する以前は、吉野台地上の街道が陸路の主な道だったため、竜ヶ水にある島津歳久を弔う心岳寺に参詣する人々は吉野台地を越えていました。また明治期に入ってもさほど変化はなく、西南戦争の際には、西郷軍が鹿児島市街地の官軍と対峙する場所にもなりました。こうした台地上にある街道沿いという

地理条件が、吉野地域の文化財に影響を与えています。

### ①関屋谷関係

大口筋という江戸時代の街道沿いにあたる谷が関屋谷です。この地域はそれ以前からの街道でもあったようで、平安期から鎌倉期にかけての石塔群が残されています。それらの多くは逆修塔(生前に自らの菩提を弔うため建てる墓)です。また地名が表すように、通行を監視するような関(関所)もあったようです。

### ②心岳寺詣りの通り道

戦国期に活躍した島津歳久は、平松の心岳寺に追い詰められこの地で亡くなりました。戦前までは心岳寺に詣でる行事が盛んに行われて、吉野台地はその通り道でした。寺山から坂道を下るルートは過酷なものです。

### ③兵六夢物語の舞台（吉野市助の墓・兵六踊り）

江戸中期に毛利正直が書いた「大石兵六夢物語」の舞台として登場するのが吉野台地です。大口筋の街道沿いには狐が化けた妖怪などが登場し、現在もかつての街道沿いにそのことを示す看板やモニュメントが建立されています。また物語にも登場する吉野の武芸の達人、吉野市助の墓が東菖蒲谷にあります。こうした吉野に伝わる物語を現在に伝えようと、「吉野兵六同好会」では子どもたちに狂言の指導をしながら公演活動も行っています。



吉野市助の墓

### ④西南戦争の激戦地（花倉坂・白山姫神社）

鹿児島市街地や磯地区を官軍が支配した際、吉野台地には西郷軍側が砲台などを敷いて応戦しています。また、寺山に西郷隆盛が創設した吉野開墾社もあり、西郷軍が拠点にしやすい環境でもありました。花倉坂や白山姫神社の付近は西郷軍が陣取った場所です。

### ⑤西郷隆盛が通った道

明治6(1873)年の政変によって西郷隆盛は鹿児島に下野しました。その後、西郷を慕うように鹿児島入りした下士官候補の元軍人らを中心に、昼は農業、夜は学問を行う学校、吉野開墾社を寺山に創設しました。西郷も積極的に学校経営や人材育成に従事したため、吉野には西郷が訪れる機会も多く、鹿児島市街地から寺山に通じる街道

沿いなどには、西郷に関する逸話が残されています。

#### ⑥<sup>はたもんざか</sup>磔者坂の井戸

大口筋沿いにあたり、現在の大明ヶ丘から帯迫に抜ける坂道にあたります。その名の通り、かつては刑場があったとされていますが、現在ではどこなのか確認できません。その坂道の入り口付近に井戸があり、また石像の観音も安置されています。

#### ⑦菖蒲谷の由来

菖蒲谷の地名の由来は「勝負」ではなく、湧水の存在が由来ではないかとされています。それは他地域においても「菖蒲」または「菖蒲谷」という地名がある場所は湧水があるからです。周辺は吉野牧の一部でもあり、おそらく馬が水飲みに来るような場所があったのでしょうか。現在は住宅街になり、その場所は確認できません。



菖蒲谷神社

#### ⑧大石様河

島津歳久は、自刃する際に刀が使えず石を抱いて亡くなったことから大石様とも呼ばれています。歳久が居城したのが吉田の松尾城で、鹿児島県の御内こと内城と行き来する際に通過する場所が大石様河でした。

### 4. 台地は藩を代表する牧

吉野台地は、江戸期以前から武士層が軍事用または移動用に使用する馬の放牧を行う牧が設置された地域です。特に江戸期には、藩内を代表する牧として発展し、台地の地形を巧みに利用して馬が飼育されてきました。その当時の様子を伝えてくれる地形や地名が多数残されており、また明治期に入ってから馬だけでなく牛の飼育も行われるようになり、馬頭観音が点在しています。さらに明治期には士族層が牧畜事業を展開する場所として吉野台地の牧を活用し、全国でも珍しい士族授産事業の成功例を鹿児島城下士であった知識兼雄が打ち立てました。

#### ①吉野牧の<sup>おろ</sup>苙跡

吉野牧は、江戸期には鹿児島藩を代表する牧の1つでした。それ以前もこの地を治めていた川上氏によって牧は経営されていました。牧場では馬の改良にも力が入れられ、文



吉野の苙跡

政9（1826）年には 239 頭の馬が放牧されていました。また寺山付近は新牧と呼ばれ、アラビア馬の放牧も行われていました。

## ②知識兼雄の事業

明治維新によって職を失った士族たちは自ら仕事を作る必要がありました。こうした中、鹿児島城下士の知識兼雄は、明治4（1871）年から藩の牧場でもあった吉野台地において酪農を展開します。鹿児島に医学指導に訪れていた英国人のウイリアム・ウイリスの助言などによって牛乳から練乳をつくる事業も行いました。こうした一連の事業は、士族授産事業としては珍しく成功しています。

## ③各地の馬頭観音

早馬という地名もあるほど、吉野台地には牛馬を祀る観音が多くあります。それは江戸期以前より、馬の放牧地であったことが理由です。現在はほとんどが住宅地となりましたが、馬頭観音は公園に移設されるなどして大切にされています。



布ヶ谷の馬頭観音



饅頭ヶ丘の馬頭観音

## 5. 台地の信仰

吉野台地やその周辺で暮らす人々にとって信仰は生活の一部でした。特に生活環境の厳しい台地上の暮らしにおいて、農業生産の安定や自然への祈りは大切な行為でした。祈願寺や菩提寺、集落の鎮守神が大切にされ、現在にも受け継がれています。また、川上や下田といった田園の広がる地域では、田んぼの神である田の神も点在しています。井戸のある七社集落には台地上では珍しく田の神があります。しかしながら、明治2（1869）年のはいぶつきしゃく廃仏毀釈によって、寺院関係のものはことごとく廃され、現在は寺院跡として伝えられるのみです。

### ①七社神社

創建年代は不明ですが、享保2（1717）年の献灯があることから、それ以前には鎮座していたと考えられます。大国主命など七柱の御祭神から七社との社名があり、それが地域の地名にもつながっています。境内には薬師如来像などもあります。



七社神社

### ②実方神社

付近に天神山という地名がありますが、そこに祭られていた天神と一緒に明治12(1879)年に現在地に建立されました。御祭神は天照大神と菅原道真です。実方集落に鎮守神として信仰されています。

### ③川上町の天道様

川上町から花棚の台地に登る途中の墓地内にあります。2本の木を鳥居のようにして小さな自然石が据えられており、地元では天道様として信仰されています。その石の背後には牟礼岡がそびえています。



天道様

### ④花倉坂の磨崖梵字

吉野台地から海岸沿いの花倉に通じる坂道が花倉坂です。その坂道の9合目付近の巨石に梵字が刻まれています。魔除けのためとされています。

### ⑤月船寺跡

大磯山という山号を有する黄檗宗おうぼくの寺院でしたが、廃仏毀釈によって廃寺となりました。鹿児島藩における黄檗宗としては初めての寺院でした。元禄14（1701）年に愚門和尚によって再興され、その和尚は享保13（1728）年に洞窟に入り、読経しながら息絶えました。現在は個人の私有地です。

### ⑥七人塚

中別府の幹線道路沿いの畑の端にひっそりと石祠が建っています。地元では七人塚という名で伝わり、隠密として派遣された山伏の供養のために建立されたという伝承があります。

### ⑦塚田・池尾神社

創建年代は不明ですが、元々は丸岡の山頂にあったようで、江戸期に現在の場所に移されたと伝わります。御祭神は塚田大明神と大山昨命<sup>おおやまくいのみこと</sup>などで、昭和6(1931)年に池尾神社を合祀しています。境内には市指定保存樹の高さ約20mの棕木があります。



塚田・池尾神社

### ⑧丸岡山

岡之原にある丸い形状の山です。岡之原の台地からは一際目立つことから、地域の象徴的な山で元日には初日の出を山頂から拝む行事が行われています。



丸岡山

### ⑨川流院跡

現在の西本願寺川上出張所内にあったとされています。境内には仏像や石塔などが斜面地に置かれています。また裏山には住職墓などが立ち並んでいて、かつては川上に住む人々の信仰を集めていたようです。川流院は曹洞宗の福昌寺の末寺でした。



川流院跡

### ⑩各地の田の神

特に水の確保できる川上地区や下田地区に田の神が点在していますが、台地上でも七社には田の神があります。川上の田の神は、寛保元(1741)年に建立された神職田の神舞型の保存状態のよいもので県指定文化財になっています。



七社の田の神

### ⑪鎮守神社

創建年代は不明で御祭神は天照皇大神と天児屋根命<sup>あめのこやねのみこと</sup>です。吉野村の鎮守神として信仰されてきました。境内には島津歳久の供養塔もあります。

### ⑫日枝神社

鳥居のある入口から境内まで階段や坂道を下りた場所にあります。山の尾根に建てられ、周辺の森も大切にされています。御祭神は大山昨命で、現在の滋賀県坂本の日吉大社から勧請したと伝わります。

## 6. 台地の生活

吉野台地上は稲作には適さないことから、米以外の作物の生産が必要でした。その1つが現在でも盛んに生産されているネギです。

また、現在の鹿児島湾付近の火山活動によって噴出した火砕流堆積物が吉野台地の基盤になっています。その火砕流堆積物は、溶結凝灰岩という加工のしやすい岩石として、これまで多方面に生活利用されてきました。地域によっては「たんたど石」とも呼ばれていますが、吉野台地においては、凝灰岩の中でも最上とされた「花棚石」が採石されています。こうした凝灰岩は、吉野台地の石垣や建物などにも利用されています。

### ①吉野ネギ

稲作に適さない吉野台地上では、ネギの栽培が盛んに行われています。現在は住宅地も拡大していますが、畑が残る地域では冬になるとネギの収穫風景を目にすることができます。

### ②花棚石の採石

吉野火砕流の分布は吉野台地の基盤となる南部の東西地域にかけて確認できますが、北西部の精木川沿いにもあります。世界文化遺産の構成資産でもある関吉の疎水溝の周辺も吉野火砕流堆積物の溶結部です。この溶結部は石材としても活用されており、特に花棚で採石される「花棚石」は、見た目にも美しく加工がしやすいということで重宝されています。

### 【吉野地域の主な未指定文化財リスト】

1. 台地で暮らすための水の確保	
1	七社の井戸（西の河と東の河）
2	寺山の水源地
3	牧雄吉胸像
4	川上の水神碑
5	岡之原の春山公民館近くの井戸跡
2. 台地を管理する武士の足跡	
6	野呂迫の御仮屋跡
7	宮之城島津家墓地跡
8	徳源様の祠
9	東別府村の名

1 0	大明ヶ丘団地の墓地（松平墓地）
1 1	花棚の城跡（鷹ノ巣城）
1 2	木市の由来
1 3	御内用方の跡
1 4	義弘の馬訓練
1 5	火薬庫跡
3. 台地と他地域を結ぶ街道	
1 6	関屋谷
1 7	心岳寺詣りの通り道
1 8	兵六踊り
1 9	花倉坂(西南戦争の激戦地)
2 0	白山姫神社(西南戦争の激戦地)
2 1	西郷隆盛が通った道
2 2	磔者坂の井戸
2 3	葛蒲谷の由来
2 4	大石様河
4. 台地は藩を代表する牧	
2 5	吉野牧のオロ跡
2 6	知識兼雄の事業
2 7	各地の馬頭観音
5. 台地の信仰	
2 8	七社神社
2 9	実方神社
3 3	川上町の天道様
3 4	花倉坂の磨崖梵字
3 5	月船寺跡
3 6	七人塚
3 7	塚田・池尾神社
3 8	丸岡山
3 9	川流院跡
4 0	各地の田の神様
4 1	鎮守神社
4 2	日枝神社
6. 台地の生活	
4 3	吉野ネギ
4 4	花棚石の採石